令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

城崎小学校

1 国語

(1) 総括

△児童は「言葉の特徴や主語の意味が理解できていない」「目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるようにするための書き表し方を工夫すること」に課題が見られました。

△「事実と自分の考えの区別ができておらず、最初に例文を使って、書き方をおさえて指導するとよい」などの意見が出されました。

(2) 記述式、思考・判断・表現

△二つの条件を満たして解答する問題で、「たてわり遊び」のよさについて考えたことが表現できていないことに課題が見られました。

(3) 選択式、知識・技能

△漢字を文の中で正しく使う力が不足していることに課題が見られました。

2 算数

(1) 総括

△「数量をそれぞれ線分図などに表して考えていないこと」に課題が見られました。

(2) 記述式、思考・判断・表現

△例えば、16は2の8倍を使って計算できるなど、「成り立つ性質を理解できていない」誤答が目立ちました。

△直径22 cmの球がすっぽり入る立方体の体積を求める問いに対し、「公式を正しく用いることができない」児童が多いことがわかりました。

(3) 短答式、知識・技能

△計算に関する成り立ちの性質を理解できていないことに誤答が目立ちました。

3 今後の取り組み

(1) 本校では、これらの分析や今までの学習の反省をもとに、「学び合い 認め合う」授業での絆づくりや、自分の学びを確かめ、学びをつなげる振り返りを重点にして、今後の授業を進めていきます。

教員は、評価を意識した授業づくりの研修を定期的に行い、授業改善をめざします。

(2) 家庭学習に「タブドリ」を課題として出して取り組ませます。最終的に自主学習としてできるように仕向けていきます。

(3) 定期的に行う校内研修を通して、「授業実践の振り返り」を協議します。最近では「学び合い」の中で話し合いやアドバイスの「視点」をいかに児童に意識させるかということが出てきました。これには、やはり明確な学びのゴールが児童に見えていて、児童自身が必然性のある課題をもった上で、教師がはっきりと視点を示し、皆で共有することが大切だということになりました。

(4) いつまでも教師が説明していないか？式だけしか書いていない子には、「言葉で説明してみたら」と支援します。または「図を描いて考えている子がいるよ」と児童に広めていきま

す。

- (5) 子どもたちの中の言葉を大切に、算数の言葉とつなげる。適応問題で評価したり、理解の度合いを評価し、指導を改善します。
- (6) 授業の振り返りがまとめを写すことになっていないか？授業中に考えたことやわかったことと関連付けてすっきりさせます。
- (7) 今後の授業改善に向けて、「本物」を学びの中でできるだけ提供できるように、教職員と研究を進めていきます。